

仙台市博物館大規模改修の経緯

当館では、令和3年（2021）秋から令和6年（2024）春までの2年半にわたり、老朽化が進んだ建物や設備の改修を行います。これは都市整備局の管理のもと、全市的に施設の長寿命化を図る計画の対象施設の一つとして実施されるものです。

改修内容は建築や電気設備、空調などの機械設備です。老朽化した部分を直し、昭和61年（1986）開館当初の機能を回復することが主眼となります。

一方で、30年の間に寄贈された歴史・美術資料や図書は膨大な量となって、収蔵スペースが不足している問題や、平成22年にリニューアルした総合展示室・特集展示室以外の展示室については、リニューアルされていないことなどの課題を当館は抱えています。こうした問題や課題の解決のための改修を、機能回復を図る長寿命化改修工事にあわせて実施することを目指し、これまで都市整備局と打合せを行い、また財政局にも予算の折衝を行う予定です。なお、こうした改修は「機能回復」ではなく、「機能向上」に分類されるため、長寿命化改修とは別に予算化する必要があります。

希望する主な改修内容は下記のとおりです。

1. 収蔵スペースを確保するための各室の用途変更
 - 資料室の一部を収蔵庫とする。
 - 講習室の機能をギャラリーに移して、講習室を書庫とし、収蔵スペースの一角を占めている図書をここに移す。
2. 企画展示室、テーマ展示室Ⅰ・Ⅱ、コレクション展示室Ⅰ・Ⅱ、プレイミュージアムなどのまだリニューアルが行われていない展示室の、ケースやガラス、照明を改修する。特にガラスは現在の展示施設の標準となっている高透過ガラス、照明はLED照明に変更。プレイミュージアムは壁や扉の改修により開放的な空間へ変更する。

このほか、外国語の表記や高齢者、障害者へ配慮した案内表示など、利用者の利便性や満足度向上に関わる改善も行いたいと考えています。